

基調講演



安宅 和人（あたか かずと）

慶應義塾大学環境情報学部 教授

ヤフー株式会社 CSO（チーフストラテジーオフィサー）

データサイエンティスト協会理事。マッキンゼーを経て、2008年からヤフー。前職のマッキンゼーではマーケティング研究グループのアジア太平洋地域中心メンバーの一人として幅広い商品・事業開発、ブランド再生に関わる。ヤフーでは2012よりCSO。途中データ及び研究開発部門も統括。2016より慶應義塾SFCでデータサイエンスを教え、2018秋より現職（現兼務）。イェール大学脳神経科学PhD。内閣府CSTI基本計画専門調査会委員、同 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会 副座長などデータ×AI時代での変革をテーマにした政府委員を多く務める。

著書に『イシューからはじめよ』（英治出版、2010）、『シン・ニホン』（ニューズピックス、2020）。



高橋 利枝（たかはし としえ）

早稲田大学教授（文学学術院／次世代ロボット研究機構AIロボット研究所）
ケンブリッジ大学「知の未来」研究所アソシエイト・フェロー

お茶の水女子大学理学部数学科卒業後、東京大学大学院、英国ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学院博士課程修了Ph.D.取得(社会科学博士：メディア・コミュニケーション学)を経て、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、ハーバード大学、コロンビア大学の訪問研究員などを歴任。現在、早稲田大学教授（文学学術院/AIロボット研究所）。ケンブリッジ大学「知の未来」研究所アソシエイト・フェローに就任。

人間を幸せにするAI社会の創造に向けて、「ムーンショットR&D事業(JST)」に人文社会学系の立場から参加している。ハーバード大学やケンブリッジ大学、スタンフォード大学などとのZ世代を対象とした国際共同研究Project GenZAI代表。

ハーバード大学、オックスフォード大学との「若者とデジタルメディア」に関する国際共同研究の研究成果をもとに出版された『デジタル・ウィズダム時代へ：若者とデジタルメディアのエンゲージメント』（新曜社, 2016年）は、2016年度テレコム社会科学賞入賞を受賞した。総務省情報通信審議会、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会テクノロジー諮問委員会、NTTサステナブル・スマートシティ・パートナー・プログラムアドバイザーなど委員多数。

モデレーター

庄司 昌彦(しょうじ まさひこ)

武蔵大学社会学部 教授
情報通信学会理事

武蔵大学社会学部教授、国際大学GLOCOM主幹
研究員、東京大学大学院情報学環客員研究員。中央
大学大学院総合政策研究科博士前期課程修了、修士
(総合政策)。専門は情報社会学、情報通信政策。
総務省「自治体システム等標準化検討会」座長、
総務省「地方自治体のデジタルトランスフォーメー
ション推進に係る検討会」座長なども務めている。

主旨説明

三本松 憲生(さんぼんまつ のりお)

株式会社情報通信総合研究所
ICTリサーチ・コンサルティング部主任研究員
情報通信学会理事

2006年入社。入社以来、海外のICT関連企業や電気
通信事業者のサービス動向を中心に調査・研究を実
施。最近では、我々の社会課題を解決するようなス
マートシティに関心を持って関連する技術やサービ
スについて調査を行う。